

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 1月 11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000177
法人名	非営利活動法人 環境福祉サービス
事業所名	グループホーム ヴィラおたつめたつ
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町納官5173番地 (電話) 0997-24-8557
自己評価作成日	平成24年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームヴィラおたつめたつは、屋久島や東シナ海を望める高台にあり、広々とした敷地に高い天井と天窓が印象的である。
 「ここでは、利用者一人一人が主役」
 「目配り、気配り、心配りの出来る支援」
 「積極的な地域との交流」
 「家族とのふれ合いを大切に」
 「おおきんなーの言える毎日」
 を理念に掲げ生活支援に努力している。小学校の運動会や入学式に参加したり、集落の行事見学や福祉祭りの出演など、地元の皆さんとの積極的な交流に取り組んでいる。
 又、ドライブ、季節の花見、家庭的な食事を楽しみながら生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念の実践】

・理念は職員全員で考えたものであり、日頃から理念が事業所の状況に則したものとなっているか話し合われると共に「積極的な地域との交流」「家族とのふれ合いを大切に」など地域と身近な関係が築けるよう努めている。また、職員一人ひとりが理念にもある「おおきんなーの言える毎日」を実践できるよう日々努力し支援に生かしている。

【身体拘束をしないケア】

・申し送り時や休憩時間、また毎月のミーティング時等に身体拘束をしないケア方法について話し合っており、「目配り、気配り、心配り」のできる支援に努めている。また、利用者の安全の確保と毎日を安心して過ごせるようにと、職員を1名増やすなどして対応している。

【地域との交流】

・事業所が中心となって企画し開催している「福祉祭り」は10年以上続いており、地域の行事としてすっかり地域に浸透しており、利用者や家族、職員に留まらず、地域の方々や他の事業所の利用者や職員も参加するなど地域一丸となって取り組み開催されている。今年は歌手の三沢あけみさんが参加されるなど盛大に行なわれた。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に「職場の理念」を職員全員で「職場の教養」を利用者・職員で唱和している。今日の目標を読み上げ倫理の意識付けをしながら、日々の業務につなげている。	職員全員で考えた理念を毎日朝礼時に唱和すると共に『職場の教養』を利用者も交え読み合っている。日頃から理念に沿ったケアが行なえているか話し合っており、相手の立場に立って考えることの大切さや利用者の体調管理、理念の中の「おおきんなー」の言える毎日が実践できるよう理念と向き合い毎日の支援に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して地域との行事の参加計画を立て、集落の敬老会への参加、福祉祭りへの出演、又小学校の入学式、運動会や中学生の体験学習の受け入れ等積極的に取り組んでいる。	日頃から野菜や釣りたての魚の差し入れを頂くなど交流があり、地域の敬老会や小学校の運動会で『宝釣り』に参加するなど積極的に地域と交流している。事業所の行事として10年続いている『福祉祭り』には、事業所の職員や利用者、家族のほか地域の方々にも参加を呼び掛け毎年盛大に行なわれており、今では地域行事の一つとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症の人への理解をしてもらうよう努力している。地域との交流を通して支援の方法も理解をしてもらうよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月に1回開催し利用者の状況や行事などを家族の代表、運営推進委員に報告し意見交換を行っている。評価結果を踏まえ意見やアドバイスをもらい運営に活かしている。	会議には行政職員のほか、包括支援センターや家族代表、地域住民代表に参加して頂くと共に家族には自由に参加して頂くよう呼び掛けている。会議では事業所行事の報告のほか、外部評価の報告や利用者の状態など細かな話し合いが行なわれるなど、日々のケアの実践に向けて取り組むことができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。研修に参加する事で行政とも連絡を取り合い指導や協力を・支援を頂いている。	運営推進会議のメンバーに行政職員や包括支援センターの職員がいるため意見を聞きやすく、また入居検討会にも包括支援センターの職員が参加していることから相談や意見交換する機会が多い。また、事業所はデイサービスの利用者も受け入れていることから事業所の運営や利用状況等について行政と話し合う機会もあり日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	4月入居された方が徘徊があり生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高いということで家族から相談があり居室に面したサッシに防犯用鍵をつけることにした。もちろん家族の同意をもらっている。身体拘束対策委員会で見直ししながら支援していくようにしている。	マニュアルとして『身体拘束その他の行動制限防止に係る規範』を作成し、職員間でケア方法を随時話し合い、地域の方々にも理解を求め見守りや連絡をもらうなどの関係を構築している。一人で外出してしまう利用者の支援方法としては、職員を一名増やすことで『目配り、気配り、心配り』を強化するなど、鍵をかけないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで定期的に勉強会を開き、防止に努めている。利用者に対して言葉遣いや、尊厳を傷つける言動を行わないように計画的に研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の研修会を開き学ぶ機会を持っている。現在のところ必要とされる利用者はいない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書や重要事項説明書を読み合わせしながら確認作業をしている。利用者や家族が十分納得されるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族には来苑された際何でも話してもらえよう雰囲気づくりに努めている。疑問点や要望については職員が共有できるよう連絡帳や会議等で話し合いを持っている。	ご家族には手紙や来所時等に要望や意向を繰り返し確認しており、細かな事についても日頃から随時聞き取り、確認し合える関係を築いている。利用者家族の意見や相談、苦情等については、職員間で情報共有出来るようにと『連絡帳』を準備し記入しており、申し送り時や休憩時間、毎月のミーティング時に話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日常業務の中で職員との意見交換を行い、日頃からコミュニケーションを図れるよう心がけ、意見や要望を聞きだしている。	管理者は昼休みなどの休憩時間やミーティング時に職員の意見を聞くと共に個別面談も実施するなど職員一人ひとりの意見や要望を聞くように心がけている。勤務体制や給与面についても管理者は職員の意見をきちんと聞き取り報告し、話し合う機会を設け、少しずつ改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員の勤務状況や実績等を代表者に報告し、処遇改善に努めている。勤務についても希望を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内の研修を毎月テーマを変え、多分野の研修を行っている。管理者研修や中堅者研修等法人内外の研修を受ける機会を定期的に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回の福祉祭りや、管理者は、他の施設の責任者やケアマネと連絡を取り合い勉強会や研修・訪問などを通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族にこれまでの生活歴、健康状態、ADLを伺い今までと変わらない生活を支援出来るよう努めている。事前に見学に来て頂きゆっくりと話をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、家族の不安や困り事等を聞き取り援助できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談があった際に、本人の状態・ADL・生活環境などを十分に聞き取り、状況を把握した上でケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ないことを見極め「もし利用者が自分の家族だったら…」という思いを常に持ちながら接している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況は常に家族に報告し、来苑された時は世間話をしながら利用者の状況を伝えている。また年間行事（家族会等）に参加をして頂いたり通院してもらったりして関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対しては、本人の居室やリビングなどで気を遣わず滞在できる雰囲気作りに努めている。集落の敬老会の参加や小学校に出かけ関係継続に努めている。行きたい所には家族の協力をもらったり行事に組み込んでいる。	これまでの人間関係については、アセスメントシートで確認すると共にフェイスシートにも細かく記載され、馴染みの床屋や墓参り等利用者の希望する場所に職員が同行支援している。また、出かけることが困難な場合は利用者と一緒に手紙を書いて送るなど細かな対応を心掛けている。お盆や正月などの節目にはなるべく利用者が自宅で過ごせるよう、家族と話し合い支援に向けて働きかけている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居された利用者に対し輪の中に入りやすいような話題づくりを積極的に行い、利用者同士お互い声を掛け合う場面が多い。午前中はなるべく一緒に行動できるようなプログラム作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの訪問時に様子を伺うくらいで、こちらからフォローは行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望・意向を尊重して、それに沿った生活が送れるように支援している。（神様に茶水を上げる等）	日頃の様子や言動などから思いや意向を汲み取り、思いを上手く伝えられない利用者には特に家族からも聞き取り、アセスメントシートや支援経過に記録している。把握した内容は申し送り時のほか、毎月のミーティング時に詳細に確認し、職員間で話し合い、モニタリングから介護計画へと反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境、本人が望むことなどを把握し、入居後も出来るだけ本人さんと話しをして今までしてきたことが出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態に合わせた対応をしている。得意な分野を活かし日常生活の中で出来る事、出来そうな事を把握しサービスに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人と家族とよく話を行い、意見交換を行って介護計画を作成している。体調面では職員を増員し病院等に通院行きやすい体制を作っている。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いを聞き取ると共に把握した情報をアセスメントシートに記載し、モニタリングを経て介護計画に反映させている。モニタリングは毎月行なわれ、運営推進委員会でも利用者の状況を確認し合い、介護計画が個々の利用者の状態に則したものとなるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・介護記録等で1日の様子を記録しプランの見直しに努めている。ミーティング等で状況の変化、体調の変化に応じて随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の入院・通院や外泊時の送迎、要望に応じて可能な限りお応えし、不満の生じないケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や地域の民生委員の方々に相談したり、デイサービス利用者や、あかつき園などの人々と交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する掛かり付けの病院に家族や職員同行で受診している。家族が同行困難な時は受診後報告、支援経過を報告し情報の共有を図っている。年に1回インフルエンザの予防接種に来てもらっている。	基本情報に入居前のかかりつけ医を記載し、希望するかかりつけ医や協力医療機関での受診を家族と協力し合いながら行なっている。受診の記録は支援経過に記録し、申し送り時や毎月のミーティング時に職員間で確認し合い、利用者一人ひとりの情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の観察、健康管理は等は随時相談し通院出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族と連絡を取り早期退院に向けて働きかけをしている。病院関係者との情報は、面会や電話等にて情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化や終末期の対応について、家族・本人の意向を確認し事業者が対応し得るケアについても説明を行って同意してもらっている。職員も意思確認書の内容を共有できている。	入居時に『重度化ケア対応指針』において説明すると共に『重度化介護についての同意書』にて同意を得ている。また、入院や状態に変化が見られた時等にも随時本人、家族の思いを確認するなど、繰り返し状態に応じたケア方法についての説明を行なっている。職員は重度化や看取りに関する研修に参加したり、日頃から重度化した場合のケア方法についての話し合いがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、ホーム内での研修のほか、消防等、定期的に訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練（夜間含む）を消防署の指導の下に実施している。その際消防団・近隣住民に参加をしてもらっている。協力隊を作る予定。	『防災マニュアル』を基に年2回の避難訓練を行っており、実際に夜間に避難訓練を行なっている。地域の消防団員や近所の方の参加もあり避難経路の確認も行なっている。事業所にAEDを設置し、繰り返し操作手順を確認し合ったり、職員や地域住民による災害時の協力隊の結成を計画したり、十分な量の備蓄準備など、非常時の対策に意欲的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が不快感を感じないように入浴（一人ずつ）や排泄・更衣時は戸やカーテンを閉めたり声の音量を下げたり、馴れ親しんだ言葉で伝えて安心感を与えられるように努めている。	職員は日頃より声のかけ方や接し方に気を配り、あからさまに介護しないよう十分配慮して接している。排泄に関しては、定期的に有無を確認し、さり気なくトイレに誘導している。また、排泄パターンの把握のため排泄チェック表を活用し、事務所で表を管理するなど取り扱いにも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から入居者の希望や要望を聞き取りやすい風囲気作りに取り組んでいます。希望等があればミーティングで実現する方向で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無意識にしている事をうまく導き、力を発揮できる環境を作り強制はせず出来るところまで本人のペースに任せている。（居室で食事やお茶を飲んでもらったりしている）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームで散髪や身だしなみに気を使い、洋服は自分で選べる方は選んで頂いている。本人さんらしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にエプロンたたみや配膳盤を拭いたりなど手伝って頂いている。季節の食材を取り入れたり、食事の彩りや盛り付けに気配りをしている。	献立は基本的に職員が立てているが、利用者のリクエストでメニューを変えることもある。台拭きや配膳、後片付けなど利用者が出来ることを手伝ってもらい、職員は同じ食事を利用者と一緒に会話を楽しみながら食べている。誕生会等の行事の際には特別メニューを提供したり、おやつは手作りをしたり、食の楽しみを支援し利用者に変え喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分不足にならないように気をつけ（入浴後の水分補給等）摂取量が少ない方にはエンシュア缶、栄養補助食品にて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをするように声掛けし見守り義歯等で自力で出来る方は自分で行っている。夕食後は義歯を預かり洗浄消毒し翌朝渡すようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で歩いてトイレに行き、頂く為、筋力低下による歩行状態が悪くなるのを防ぐ体操を取り入れている。排泄パターンを把握し昼間はトイレ誘導を行ってできるだけオムツの使用を減らしている。	日中はなるべくトイレで排泄するようにしており、また、尿取りパットやリハビリパンツにおいても夜間のみ使用するなど状況に応じて使い分けるようにしている。トイレまで安全に移動できるよう歩行器を購入したり、介護計画にリハビリパンツを減らす努力を組み込むなど、職員全員で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動による自然排泄に取り組んでいる。トイレに誘導しても自然排泄が難しい方には、排便表を付けて服薬による排便を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の状態を見ながら入浴していただいている。入浴拒否の利用者には、時間を置いて再度声掛けしたり翌日改めて対応するなどの支援をしている。	入浴は基本的に2日に1回だが、希望があればいつでも入浴できるようにしており、同性介助でプライバシーにも配慮している。入浴拒否のある方には、声のかけ方や声かけのタイミングを工夫するなどしている。入浴後のケアにも配慮しており、入浴後の水分補給や保湿剤、爪切りなど細かな対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が自分のペースで休息や睡眠が出来るような支援をしている。布団やベッド、居間、ホールにソファを置き休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や飲み併せの作用について、いつでも見られるようにしている。家族に薬剤師の方が居るのでアドバイスをもらっている。医師と相談して服薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意なこと、出来ることをしていただく機会を作る。花壇の草取り・洗濯物を干したりたたんだり得意分野を活かし生活できるような支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブ、散歩、外出や外泊を本人の希望により支援している。季節を味わえるような場所に出向いて季節感を感じてもらっている。	日常的に買い物やドライブ等に出かけるなど月に1回程度は外出している。車椅子等により外出が困難な利用者も外出できるよう、同法人から車椅子対応車を借りて外出している。「以前利用していたデイサービスに行きたい」という利用者の希望にも職員が連絡調整して屋外行事として出かけるなど積極的に外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な方が多いため事務所で管理し、本人の希望があった時は使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族とのつながりを大切にして頂くように自室に電話、携帯電話で連絡される方、家族からの手紙や小包が届いたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には多くのソファやベンチを配置し、気の合う利用者同士で思い思いの場所で過ごされている。日差しが強いのでグリーンカーテン・よしず等で調整し季節感を味わえる様にしている。ホールの模様替えを季節ごとにする。	事業所が高台に建っていることから、庭やリビングからは海が見渡せ、気持ちの良い環境にある。リビングや廊下には季節ごとに作られる作品や福祉祭り等の行事の写真が掲示されており、来訪者が楽しく見て回れるようになっている。空気が乾燥する季節になると食堂や各居室に加湿器を設置するなど室温と共に湿度にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が喜びを共有できるような居室の行き来や、気のあった利用者と一緒に過ごしたりと、思い思いの時間を過ごしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族の方へ昔から使い慣れている物や、思い出のある物など持ってきてもらうようお願いしている。その人らしく安心して過ごせるように配慮している。	居室には机やソファ、タンス、位牌や写真などの思い出のものが持ち込まれ、携帯電話や固定電話を引いている方もおり、利用者が居心地良く過ごせる環境作りをしている。また、家族の写真や事業所の行事等で写した写真を飾るなど明るい雰囲気になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人家族の同意を得て、名前・顔写真を貼り自分の居室と分かるようにしてある。トイレや浴室などは案内板を表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない